

第 9 期

事業報告

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月31日

株式会社 島原観光ビューロー

第9期 事業報告

(自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日)

1. 株式会社の現状に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当期におけるわが国の経済は、一時的な停滞感がありましたが、3月にマイナス金利が終了し、名目 GDP、日経平均株価はともに過去最高値を更新。公示地価上昇率や春闘賃上げ率は、バブル期以来の伸びを記録するなど幅広い分野でインフレ経済への回帰、デフレからの脱却が見られました。

2024年の国内観光業は、インバウンド（訪日外国人観光客）及び国内旅行ともに過去最高を記録。インバウンドは3,686万人とコロナ禍前の2019年を約500万人上回り年間過去最多を更新するとともに、国内旅行消費額も25兆1,175億円と過去最高を記録しました。

宿泊業についてもコロナ禍からの回復とインバウンド需要の増加により好調に推移。2024年の延べ宿泊者数は前年比5.3%増の6億5,028万人泊となり、前年より増収となった旅館・ホテルが数多く見られました。なかでもインバウンドの宿泊者は、対前年比38.9%増の1億6,360万人泊と大きな伸びを示しました。インバウンドの延べ宿泊者数をコロナ禍前の2019年と昨年と比較した場合、三大都市圏では56.5%増と1.5倍以上の高い伸びを示している一方、それ以外の地方部では16.0%増に留まっており、インバウンド需要の地域間格差が顕著となっています。

県内では、長崎スタジアムシティの開業や長崎～ソウル航空線の再開等追い風となる複数の要因や官民を挙げた施策展開の効果も相まって、年間の県内宿泊者数は、前年に続きコロナ禍前を超える水準まで回復しました。

市内の延べ宿泊者数は、21.3万人泊と前年に続き20万人泊の大台は超えたものの、未だコロナ禍前の水準には達していない状況です。また、当期は島原城築城400年記念イヤーで島原城を舞台に様々なイベントや催しが開催され県内外から多くの来島があったこともあり、島原城では、入場者が22.2万人、天守閣登閣者が13.2万人と、前年度及びコロナ禍前を上回り、会社設立以来最高数を記録しました。

当期決算では、売上、経常利益ともに大幅な増額となり、当期純利益は過去最高の1,240万円を計上。当期末の純資産合計は約7,500万円となりました。

なお、部門ごとの主な業績内容及び成果については以下のとおりです。

① 指定管理事業

(ア) 島原城

築城400年記念事業効果により、メインイベント期間である10月を中心に、県内外からの来場者数が大幅に増加しました。これにより天守閣の入館者数は13万人を超え、好調だった前期を上回る成果をあげました。長崎港に寄港するクルーズ船等によるインバウンド（訪日外国人観光客）の来訪も前年度に引き続き好調で前年度比5.6%の増となりました。国別では韓国、台湾、ドイツ、中国、アメリカの順に多く、この5か国で全体の約8割を占めています。

売上げは、前述した利用者の増加に加え、令和5年10月の料金改定（増額）による効果が大きく、前期比で約1.2倍、コロナ禍前（2019年度）比で約1.5倍と大きく増加しました。

また、利用料収入のほか、築城400年記念限定御城印や武将隊オリジナルグッズの作成・販売、夜間の天守閣を活用した「夜の陣」、夜間の駐車場を活用した「車泊」など様々な自主事業に取り組むことによりお客様の満足度を高め利益増加につなげました。このほか、島原鉄道の企画商品

である「島鉄カフェトレイン」にも引き続き連携して取り組みました。

- ・売上高 117,880 千円（前期比 124.3%、2019 年度比 153.1%）
- ・入館者数 131,961 人（前期比 110.0%、2019 年度比 106.3%）
うち外国人 6,745 人（前期比 105.6%、2019 年度比 85.2%）

（イ）本丸売店

築城 400 年記念を契機に売上増を図るため、島原城ペーパークラフトをはじめ数々のプライベート商品の製作・販売に取り組みました。また、県内外の各種催事・イベントに積極的に参加し販売促進に努めるとともに、ふるさと納税の返礼品提供事業者として市内産品の造成販売に取り組み収益増加を図りました。築城 400 年に伴う島原城の入場者の増、インバウンド需要の回復、原価率の低いプライベート商品や城の茶屋の売上が伸びたことなどにより売上高は、前期並びにコロナ禍前の 2019 年度を上回りました。

- ・売上高 73,815 千円（前期比 108.6%、2019 年度比 125.7%）
- ・平均原価率 61.4%（前期比 ▲1.7%）

※ 主なプライベート商品

島原城ペーパークラフト、記念切手、ブルゾン、ポロシャツ、Tシャツ、トートバック シマバラジョッキ、ピンバッジ、LED キーホルダー、通行手形、梅グミ、石垣チョコ

（ウ）清流亭

物価高にともなう買い控えや団体旅行者の減少、島原鉄道の企画商品である「島鉄カフェトレイン」に付帯している四明荘無料入館券の廃止等により来店者総数は、前期よりも 7%減少し、結果的に築城 400 年記念効果を鯉の泳ぐまちエリアへ反映させることができませんでした。インバウンドは、新型コロナウイルス感染症法上の 5 類移行や円安影響もあり前期の約 1.7 倍まで回復したものの、コロナ禍前の水準には届いていない状況です。

売上は、従来から開催している島原水まつりでの出店、島原ボタニカルアート展の初開催、新たなプライベート商品の販売など様々な収益増加策に取り組みましたが、入店者減の影響が大きく前期よりも 2%少なくなりました。

- ・売上高 19,822 千円（前期比 98.0%、2019 年度比 134.8%）
- ・平均原価率 71.1%（前期比 +1.7%）
- ・来店者数 32,324 人（前期比 93.0%、2019 年度比 115.8%）
うち外国人 1,044 人（前期比 167.3%、2019 年度比 28.9%）

（エ）四明荘

物価高にともなう買い控えや団体旅行者の減少、島原鉄道の企画商品である「島鉄カフェトレイン」に付帯している四明荘無料入館券の廃止等により来店者総数は、前期よりも 6.5%減少し、結果的に築城 400 年記念効果を鯉の泳ぐまちエリアへ反映させることができませんでした。インバウンドは、新型コロナウイルス感染症法上の 5 類移行や円安影響もありコロナ禍前の水準を上回りましたが、好調だった前期には届きませんでした。国別では韓国、台湾、中国、アメリカ、香港の順に多く、この 5 か国で全体の約 7 割を占めています。

売上は、入館者が減となりましたが、料金改定（増額）の効果により前期比 5.8%の増となりました。このほか、翻訳アプリを活用したインバウンド対応や記念写真の撮影協力等きめ細かいおもてなしに努めました。

- ・売上高 10,939 千円（前期比 105.8%、2019 年度比 133.0%）
- ・入館者数 30,868 人（前期比 93.5%、2019 年度比 109.5%）
うち外国人 3,596 人（前期比 96.2%、2019 年度比 132.4%）

指定管理施設の入館者数及び売上状況の推移

		第4期	第7期	第8期	第9期	前期比較		コロナ禍前 2019年度比
		(令和元年度)	(令和4年度)	(令和5年度)	(令和6年度)	増減	対比	対比
島原城	入館者	124,100人	85,643人	119,925人	131,961人	12,036人	110.0%	106.3%
	売上高	77,010千円	59,859千円	94,825千円	117,880千円	23,055千円	124.3%	153.1%
本丸売店	売上高	58,732千円	53,133千円	67,973千円	73,815千円	5,842千円	108.6%	125.7%
清流亭	入館者	27,924人	22,432人	34,750人	32,324人	▲2,426人	93.0%	115.8%
	売上高	14,709千円	18,626千円	20,224千円	19,822千円	▲402千円	98.0%	134.8%
四明荘	入館者	28,201人	29,181人	33,007人	30,868人	▲2,139人	93.5%	109.5%
	売上高	8,227千円	7,998千円	10,344千円	10,939千円	595千円	105.8%	133.0%
施設合計	入館者	180,225人	137,256人	187,682人	195,153人	7,471人	104.0%	108.3%
	売上高	158,678千円	139,616千円	193,366千円	222,456千円	29,090千円	115.0%	140.2%

注1：島原城売上高は、入館料のほか駐車料金、望遠鏡使用料、物販売上等を含む。

② 委託事業・補助事業

(ア) 鯉の泳ぐまち魅力アップ事業 (Koi カフェゆうすい館)

本事業は、鯉の泳ぐまち観光施設を周遊し、滞在時間の延長と消費拡大を目的に島原市からの委託を受け、令和3年7月から古民家カフェとして営業しています。店内では島原の湧水を使った伝統的なスイーツ「かんざらし」や湧水で入れたコーヒー等を提供するとともに、かんざらしの手作り体験を行うなど付加価値を付けたサービスでお客様に癒しの時と空間を楽しんでいただけるよう心がけています。当期は、前期に商品化した3種類の異なった味のかんざらしをセットにしたオリジナル商品「かんkoi セット」の定番化、お抹茶づくし等インバウンド向けやインスタ映えする商品の開発、リピーター獲得を目的としたポイントカードの配布等顧客拡大に向けて様々な取り組みを行いました。その結果、入店者数は好調だった前期を越え、売上も前期の約1.3倍の1,100万円となり目標の1,000万円を上回る成果をあげました。

来店者のうち四明荘からの紹介者が前期3割から4割程に増え、鯉まちトライアングル構想（四明荘⇔koi カフェゆうすい館⇔清流亭の周遊）が順調に推移していることが実証されています。さらに当期は島原城に来場された観光客を鯉まちエリアへ周遊させるため、島原城天守閣入口に鯉まちエリアの案内看板を設置し、同エリアの認知度向上及び周遊促進に努めました。

		第7期	第8期	第9期	前期比較	
		(令和4年度)	(令和5年度)	(令和6年度)	増減	対比
Koiカフェゆうすい館 (令和3年7月開業)	入店者数	13,187人	19,355人	20,811人	1,456人	107.5%
	売上金額	6,237千円	8,833千円	11,376千円	2,543千円	128.8%
	委託料	9,000千円	3,000千円	4,000千円	1,000千円	133.3%

(イ) 島原城築城400年武将隊PR事業

本事業は、島原藩の歴代藩主の歴史や功績を紹介し、来訪者に当時の雰囲気を感じてもらうことで、観光客の満足度や滞在価値を高め、地域観光の活性化を目指すことを目的としています。

令和3年度から島原市からの委託を受けて開始され、当期で4年目の取り組みとなります。当期

は、島原城築城 400 年という大きな節目を迎えたことから、島原城を中心に県内外のさまざまなイベントや催事に積極的に参加し、武将隊による演舞披露や記念撮影を通じて、観光地「島原」の魅力向上と、築城 400 年事業の盛り上げに寄与しました。中でも築城 400 年のメインイベントでは、他地域の武将隊を招致し、島原城での合同ステージイベントを開催。迫力ある演武や共演により、ステージイベントの盛り上げに大きく貢献しました。

また、インターネットを活用した広報活動、公式 YouTube チャンネルでの動画配信及び SNS による日々の情報発信等を継続的に行うことで、来場者だけでなく遠方のファンにもアプローチを行いました。土日祝日には、演舞披露や武将との記念撮影会を実施するなど来場者と直に触れ合う機会を設けることで来場者とのつながりを強めました。

さらに武将隊自らデザインした築城 400 年記念の「ブルーインパルス限定御城印」や「限定デザイン缶バッジ」等オリジナルグッズの企画・制作・販売に取り組み収益増加を図りました。

- ・当期 動画配信数 121 件 SNS 発信数 2,231 件
- ・前期 動画配信数 105 件 SNS 発信数 2,327 件

(ウ)観光振興事業(島原港観光案内所、島原駅観光案内所)

島原市への誘客、受入れ後の対応、広報宣伝活動を三本柱として様々な観光振興策に取り組みました。海と陸の玄関口となる島原港と島原駅での観光案内所では、対面と電話を合わせて計 11,334 件（約 1 割がインバウンド）の対応を行いました。

このほか、ハイカラさんが通る（袴のレンタル）、恋みくじやオリジナルグッズの作成・販売、プライベート商品の販売等収益事業にも積極的に取り組みました。

誘致活動では、従来から取り組んでいる修学旅行・スポーツ大会の誘致に加え、壱岐市での観光情報説明会及び個別相談会に参加するなど、国内観光客の誘致促進に努めました。

一方、海外誘致では、今後のインバウンド需要の高まりを視野に県観光連盟及び県観光課と連携して、長崎・上海定期航空路線開設 45 周年事業で現地のエージェントやマスコミを対象とした観光説明会を上海市で開催。島原の風光明媚な写真や動画を紹介することで島原観光の魅力発信に努めました。さらに県内観光団体と合同でソウル市を訪問し、観光素材の説明や個別相談会を開催することで中国や韓国等アジア圏のインバウンド誘客に取り組みました。

また、会社の収益向上を図るためしまばら観光課及びキャンプ誘致実行委員会と連携して 24 件のスポーツ大会や合宿等を誘致。旅行業として 7,117 人泊の配宿（前期比約 1.4 倍）業務に従事し 700 万円を売り上げました。令和 6 年中の市内宿泊施設における宿泊者は、約 21.3 万人と前年に続き 20 万人の大台を越えたものの、依然コロナ禍前の状態には届いていません。うちインバウンドは 4,900 人と全体の 3%にも達しておらず、インバウンド需要の偏在化が課題となっています。

このほか、宿泊部会や火張山花公園の事務局、ひなめぐりんやオルレ等イベントの受付業務を担うことで島原観光の普及発展に寄与しました。

- ・当期 物販売上 2,900 千円 旅行業売上 7,270 千円
- ・前期 物販売上 2,514 千円 旅行業売上 5,383 千円

○ 市内宿泊施設の宿泊者の推移（宿泊部会加入施設集計）

	2019年	2020年 (コロナ禍)	2021年 (コロナ禍)	2022年	2023年	2024年	前年比較	
							増減	対比
宿泊者数	226,333人	152,468人	149,685人	185,576人	209,250人	213,464人	4,214人	102.0%

③オリジナル事業

(ア) めぐりんチケット

本事業は、島原城天守閣及び四明荘の1日フリー入館をはじめレンタサイクルや加盟店での割引など様々な特典が受けられるお得な旅行チケットを販売し、市内観光の周遊及び滞在時間の延長、消費拡大を図るものです。島原港、島原駅、清流亭の各観光案内所及び島原城天守閣の4か所で販売しています。当期の販売数は5,455冊（557万円）となり、目標の5,000冊を上回ることができました。売上が前期比1.7倍と大きく伸びた要因は、アンケートにより利用者の要望、意見等を集約し、利用者目線に立ったサービス内容の見直しなど利便性向上に努めたこと、四明荘入口に「めぐりんチケット」宣伝用チラシを掲示したことで清流亭の売上が前期比5倍と大きく伸びたことによるものです。

		第7期 (令和4年度)	第8期 (令和5年度)	第9期 (令和6年度)	前期比較	
					増減	対比
めぐりんチケット (トク駐券含む)	販売冊数	1,536冊	3,236冊	5,455冊	2,219冊	168.6%
	売上金額	1,577千円	3,331千円	5,568千円	2,237千円	167.2%

(イ) めぐチャリ

本事業は、観光客の市内周遊の利便性向上を目的としたレンタサイクル事業です。県の補助を活用して21台の電動自転車を整備し、島原港、島原駅、島原城及び清流亭の4箇所で貸し出しを行いました。当期は雨天が多かったこともあり貸出台数は前期よりも1割程少なくなりましたが、めぐりんチケット購入特典の割引率を下げたこと、乗り捨て料金を新たに設けたことなどにより売上は前期より増えました。また、企業版ふるさと納税で寄贈を受けた車両8台を新たに追加して貸し出しましたが、スタイリッシュなデザインで女性に人気を博した一方、サドルが固く長時間運転には適さないとの声が多く聞かれたため、カバーを付帯することで対応しました。

なお、利用実績は、貸出台数の多い順に島原港427台（45%）、島原駅365台（39%）、島原城133台（14%）、清流亭26台（2%）で前期同様の結果となりました。

		第7期 (令和4年度)	第8期 (令和5年度)	第9期 (令和6年度)	前期比較	
					増減	対比
めぐチャリ	貸出台数	671台	1,079台	951台	▲128台	88.1%
	売上金額	592千円	835千円	949千円	114千円	113.7%

(ウ) ハイカラさんが通る

本事業は、若い世代の女子旅やカップルをターゲットにした袴のレンタルサービスで、当初「しまばら浪漫ひなめぐりん」期間中のみの企画としてスタート。その後、中年層以上の幅広い年代の需要が見込まれことから、事業期間に春休み・夏休み期間を追加、令和3年度からは土日祝日を追加、さらに前期からは事前予約を前提に平日の貸出も対応するなど、利用者の利便性を高めながら積極的に顧客獲得に努めました。当期は初の試みとして出張ハイカラさんを実施。南島原市の口加高校に出向き、地元高校生との交流会において香港の修学旅行生の着付け体験を行いました。貸出人数及び売上は、人手不足に伴い島原城下ひなめぐりん期間中の貸し出しを一部制限した影響もあり、前期より1割程少なくなりました。

		第7期	第8期	第9期	前期比較	
		(令和4年度)	(令和5年度)	(令和6年度)	増減	対比
袴レンタル グッズ販売	貸出人数	237人	194人	176人	▲18人	90.7%
	貸出売上	359千円	289千円	261千円	▲28千円	90.3%
	グッズ売上	236千円	308千円	257千円	▲51千円	83.4%

(エ) さくらさくらプロジェクト島原城お箏教室

本事業は、地域貢献の一つとして島原半島内の児童生徒に藩政時代から上流階級の習い事であったお箏を通じて邦楽文化に触れ、お箏の伝統文化を次の100年につなぐことを目的に令和4年度から取り組んでいます。4月6日には、島原文化会館で島原城築城400年を記念して演奏会を実施するなど精力的に活動を行いました。当期末現在、半島内の児童生徒20名が在籍しており、令和7年に開催される国民文化祭での演奏を目指して月2回の練習に取り組むほか、半島内の各種イベント等にも積極的に参加、演奏することで地域活性化の一助となっています。

④ DMO 推進事業

DMO（観光地域づくり法人）は、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地地域づくりの司令塔となる法人と定義されています。地域全体の観光資源を最大限に活用した魅力的なプロモーション、観光客の満足度を高めるための仕組みの構築、地域の様々な関係者と協力した観光地域づくりの推進等地域DMOとしての目的を達成するため、以下の様々な事業に取り組みました。

(ア) 島原市ふるさと納税プロモーション委託事業

島原市ふるさと納税返礼品のプロモーションを目的として返礼品カタログの制作・インフルエンサーによる返礼品紹介動画の投稿・体験型返礼品の新規開発を行いました。

(イ) DMOにおける持続可能な観光地経営のための課題分析等支援事業

「持続可能な観光地経営」を実現するための課題分析や解決方法の検証を行うことを目的に伴走支援を受けるモデル企業として九州運輸局から選定を受け、下記施策に取り組みました。

- ①観光ステークホルダー（観光に係わる全ての人や組織）によるワークショップ（4回）の開催
域内の観光事業者、飲食店、一次産業事業者等35名が参加し、島原観光の強み、弱みについてそれぞれの立場で意見を出し合い、島原観光の在り方について議論を交わしました。

従来の観光事業者である旅行業やホテル業にとらわれない、様々な職種の観光ステークホルダーが参集し、島原の観光について検証する有意義な機会となりました。今後はこのワークショップで出された意見、提案を基に島原観光の戦略マスタープランの策定を目指します。

- ②インバウンドおもてなし研修の開催

確実に増加している訪日観光客対応の質と機運向上を目的とし、外部講師を招請したインバウンドおもてなし研修を開催いたしました。域内飲食店や観光ガイド等の参加のもと、訪日観光客対応の基礎について学ぶ契機としました。

- ③文化体験コンテンツの新規開発・モニターツアーの実施

400年の歴史を有する城下町に今なお継承されている日本文化をもとに、ガイド・包丁研ぎ・藍染・茶道等の体験コンテンツの造成を行いました。さらに有識者と国内在住外国人を招致してのモニターツアーを計2回開催し、意見交換および体験の磨き上げを行いました。

(ウ) 地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業（鹿児島・阿蘇・雲仙エリア）

本事業は、今後のインバウンドの本格的な回復を見据え、消費額の増加、地方への誘客促進を目指す観光庁が、訪日旅行における高付加価値旅行者の地方誘客を促進するプロジェクトです。鹿児島・阿蘇・雲仙エリアにおける本事業の全体事務局である雲仙観光局の委託を受け、高付加価値体験コンテンツの新規造成を行いました。島原市は九州有数の鍛冶屋の密集地であることから、「鍛冶打ち体験」と「日本食体験」を組み合わせたパッケージ型体験商品の開発を行いました。さらに令和7年度中の販売開始を目指して、訪日富裕層をターゲットとした旅行会社を招請したファムツアーの開催、体験商品の磨き上げに取り組みました。

□ 総括概況

● 指定管理部門

指定管理施設の売上は、清流亭が過去最高だった前期にはわずかに届かなかったものの、それ以外の島原城、本丸売店及び四明荘の各施設は、前期並びにコロナ禍前の2019年度を上回りました。この結果、指定管理4施設全体の売上総額は、前期比15%増、コロナ禍前比40%増の222,456千円と過去最高となりました。これにより会社設立時の目標であった市指定管理料ゼロを達成することができました。

エリア別売上では、島原城と売店の島原城エリアが前期比18%増の191,695千円と大幅に増となる一方、清流亭と四明荘の鯉まちエリアは、ほぼ前期並みの30,761千円に留まりました。

島原城では、入場者が22.2万人、天守閣入館者が13.2万人と設立以来最高となる一方、鯉まちエリアでは、清流亭、四明荘ともに前期より7%程少なくなりました。

このように島原城エリアと鯉まちエリアでは大きく明暗が分かれる結果となりました。島原城エリアが大きく伸びた要因は、築城400年記念事業効果に加え、一昨年10月の料金改定によるものと捉えています。当期は、島原城築城400年の本番ということで島原城を舞台に年間を通じ様々なイベントや催しが開催され、メディア等への露出も多かったことから県内外から多くの皆様に来城いただきました。特に10月に開催された「しまばら江戸祭り」、「ブルーインパルス展示飛行」、「築城400年記念シンポジウム」では10万人を超える集客があり、島原市全体に大きな経済波及効果があったものと感じています。

● インバウンド事業

インバウンド需要については、円安効果もあり市内の観光施設である島原城及び清流亭は増加した一方、四明荘では減少しました。3施設の入館者総数は、前期比5.9%増の11,385人と前期に続き増加しましたが、未だコロナ禍前実績の8割程度に留まっており、都市圏と本市を含む地方との地域間格差が表れる結果となりました。

2024年の長崎港のクルーズ船寄港数は160隻と前年の1.7倍に増えていますが、下船後の滞在時間と長崎から島原半島への移動距離（時間）等の影響もあり、本市を来訪するインバウンドの数は、寄港数に比例した伸びとはなっていないのが現状です。

空路では、昨年10月から長崎～ソウル線の定期便運航が約5年7か月ぶりに再開しましたが、長崎空港からの国際線直行便は韓国、中国の2か国のみで、福岡の8か国、鹿児島4か国、宮崎・熊本の前3か国に比べ優位性は低い状況にあり、こうした国際線直行便の増便が市内インバウンド増に向けた大きな課題であると捉えています。長崎県観光連盟では、本年5月の理事会でインバウンド推進委員協議会が立ち上げられ、来県したインバウンドを県下全域へ周遊させる仕組み作りに向けて検討が進められることが期待されることです。

なお、国別では韓国（3,829人）、中国（1,590人）、台湾（1,504人）、米国（917人）の順に多く、アジア圏の上位3国で全体の6割以上となっています。

● 委託事業（武将隊・湧水館カフェ）、補助事業（観光振興事業）

市からの委託事業で取り組んでいる「島原城築城 400 年武将隊 PR 事業」、「鯉の泳ぐまち魅力アップ事業」は、それぞれの事業目的である観光地島原の魅力アップと築城 400 年を契機とした誘致、市内観光施設の周遊促進と滞在時間の延長という所期の目的を一定達成することができました。特に鯉まちエリアの清流亭と四明荘の中間に位置する湧水館でのカフェ事業は、令和 3 年 7 月の事業開始以降順調に売り上げを伸ばしており、当期は入店者 2 万人、売上 1 千万円の当初目標を達成しました。また、めぐりんチケット（観光向けのお得なセットチケット）、めぐチャリ（レンタサイクル）、ハイカラさんが通るは、利用者ニーズに応じて柔軟に事業を見直すことで、観光客にも好評で認知度も高まっており市内観光の周遊促進と滞在時間の延長、消費額拡大に大きく寄与しています。

また、今後のインバウンド需要の拡大を見据え、県観光連盟、県観光課と連携して上海（中国）、ソウル（韓国）に赴き、現地の旅行関係者に対して直接島原の観光素材の魅力を説明することでアジア圏のインバウンド獲得に向けた取り組みを強化しました。

● DMO部門

当社は令和 2 年 1 月に地域 DMO 法人として観光庁の登録を受けていますが、人財や財源確保等の課題もありこれまで DMO 本来の果たすべき活動が実施できていなかったのが現状です。こうしたことから、当期では九州運輸局の「DMO における持続可能な観光地経営のための課題分析等支援事業」に応募し、モデル地域として採択を受けました。当期では本事業を活用してワークショップを開催。専門家の意見・助言を受けながら観光戦略について一定の方向性を導きだせたこと、参加した他業種のステークホルダーとのネットワークが構築できたことは事業の大きな成果となりました。

このほか、観光庁の高付加価値事業として包丁研ぎや茶道等の体験コンテンツの造成、鍛冶打ち体験と日本食体験を組み合わせたパッケージ型体験商品の開発など国県の財源を有効活用し、域内の地元企業や事業者を巻き込んだ横断的な取り組みを行いました。

● 総務・管理部門

課題のワークエンゲージメント向上による生産性アップを実現するため、給料表の改定、昇給制度の導入、賃金単価の改定、契約社員に対する賞与支給制度の導入、夏季休暇・年末年始休暇等特別休暇制度の導入、退職金制度（正規社員対象）の導入等給与・賞与面及び福利厚生面の一体的見直しを図るための各種処遇改善に取り組みました。これにより持続可能な会社経営の基盤となる従業員のモチベーションの向上、離職防止及び優秀な人材の獲得が期待されます。

当期決算では、島原城収益の増に伴い売上総額が前期比 2.5%増となりました。ただ、当期は指定管理料がゼロとなったため、当期同様に前期指定管理料をゼロと仮定し売上のみで比較した場合は、11.7%増、約 2,950 万円の増となります。売上原価を差し引いた、総利益は前期比 3.3%増（+7,016 千円）となる一方、販売管理費は前期比 2.0%減（▲4,074 千円）となり、営業利益は前期比 3 倍超の 16,079 千円となりました。

なお、販売管理費では、処遇改善に取り組んだことで給与手当、賞与及び法定福利費等は増額となりましたが、一方で役員報酬の減、退職社員不補充による賃金・法定福利費の減、退職給付費用等の削減に努めた結果、人件費総額は前期比 2.2%増に留めることができました。このほか、国の補助制度廃止に伴う水道光熱費の増、売上の伸びに伴い消費税等が増となる一方、旅費交通費、消耗品費、広告宣伝費及び印刷製本費等の事務的経費を経営努力により大幅に削減しました。

この結果、前期に続き 2 期連続で増収、増益の黒字決算となりました。今後も常に民間感覚を意識し創意工夫を重ね、売上増加とコスト削減を図り、自立・自走型の会社経営に向けて社員一

丸となって取り組んでまいります。

なお、当期決算の主な数値は下記のとおりです。 ※（ ）は前期比

◇ 売上高	281,748千円	(102.5%)
うち指定管理料	0	(皆減 ▲22,600千円)
◇ 売上総利益	218,356千円	(103.3%)
◇ 販管費	202,277千円	(98.0%)
◇ 営業利益	16,079千円	(322.3%)
◇ 経常利益	16,420千円	(318.9%)
◇ 当期純利益	12,409千円	(693.7%)

(2)資金調達等についての状況

設立時2,005株(払込金額1株につき20,000円)を発行し、資本金40,100,000円でスタートしました。その後、2016年11月に増資を行い995株追加発行し、資本金60,000,000円(3,000株)となり現在に至っています。

(3)財産及び損益状況の推移

	第4期 (令和元年度)	第7期 (令和4年度)	第8期 (令和5年度)	第9期 (令和6年度)	前期比較	
					増減	対比
売上高	234,571千円	244,132千円	274,894千円	281,748千円	6,854千円	102.5%
(再掲)うち指定管理料	(8,500千円)	(31,200千円)	(22,600千円)	(0千円)	(▲22,600千円)	0.0%
売上総利益	187,452千円	193,168千円	211,339千円	218,356千円	7,017千円	103.3%
販管費	186,220千円	192,972千円	206,351千円	202,277千円	▲4,074千円	98.0%
営業利益	1,232千円	196千円	4,988千円	16,079千円	11,091千円	322.4%
経常利益	1,233千円	589千円	5,149千円	16,420千円	11,271千円	318.9%
当期純利益	1,050千円	244千円	1,789千円	12,409千円	10,620千円	693.6%
1株当期純利	350円	81円	596円	4,136円	3,540千円	693.6%
総資産	64,160千円	114,288千円	115,001千円	146,544千円	31,543千円	127.4%
純資産	38,336千円	60,759千円	62,547千円	74,956千円	12,409千円	119.8%

(4)主要な営業所及び従業員の状況

名 称	所 在 地
(株)島原観光ビューロー 島原城本部	〒855-0036 島原市城内1丁目1183-1
(株)島原観光ビューロー 外港事務所	〒855-0861 島原市下川尻町7-5

令和7年3月31日現在

	総合企画支援部	DMO推進室	商品企画販売部	誘致営業推進部	合 計	前期末増減	前期末
社 員	2 (1)	2 (0)	10 (7)	2 (2)	16 (10)	1 (▲1)	15 (11)
契 約 社 員	2 (1)	0 (0)	16 (16)	3 (2)	21 (19)	▲5 (▲2)	26 (21)
合 計	4 (2)	2 (0)	26 (23)	5 (4)	37 (29)	▲4 (▲3)	41 (32)

注1：（ ）は女性社員の人数

(5) 剰余金の配当等を取締役会が決定する旨の定款の定めがあるときの権限の行使に関する方針

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要な施策の一つと位置付けております。将来における安定的な成長と経営環境の急激な変化にも対応できるよう、まずは必要な内部留保を確保したうえで株主への経営成績に応じた利益還元を継続的に行うことを基本としています。

(6) 対処すべき課題と方針

観光業界はコロナ禍で大きな変化が生じ、利益の減少だけでなく観光客の価値基準も変わりました。コロナ禍を経た観光業界では、マーケットが回復に伴う人材不足やインバウンド対応が課題となっています。インバウンド需要の取り込みは、当社の持続的な経営運営を実現するための重要な施策の一つと位置付けていますが、多言語対応、交通アクセス、キャッシュレス決済等多くの課題を抱えているのが現状です。こうした課題に対応するためには、自治体と企業が協力したデジタル化の推進や環境整備、地域特性を活かした戦略等を検討していく必要があると考えています。

また、効率的な施設運営、良質なサービスの提供及び効果的な観光プロモーションを実現するためには、会社運営の基盤となる人材の確保、育成が急務となっています。

部門ごとの今後対処すべき課題と目指すべき方針は以下のとおりです。

【総務・施設整備】

- ワークエンゲージメントの向上による生産性のアップ
- 業務量・業務内容に応じた適切な人員確保及び人材育成
- 顧客ニーズに沿った施設環境の整備及び計画的な維持管理

【DMO 推進室】

- 効果的観光マーケティング（市場分析・ブランド戦略・プロモーション）の実施
- 既存観光資源の磨き上げ、受入環境の整備及び新たな観光コンテンツの開発・販売
- 観光支援財源（国県等の補助金）確保に向けた取り組み
- 2026(令和8)年1月に更新期限を迎える登録DMOの更新

【島原城・本丸売店】

国指定史跡を契機とした収益の最大化

- インバウンド及び修学旅行受入れ体制の整備・拡充
- 武将隊メンバーの安定的な採用育成及びパフォーマンスの向上
- 武将隊事業の新たな特定財源の活用（現在活用中の国交付金はR7年度末で対象期間満了）
- 天守閣館内展示スペースの環境整備
- 新たなプライベート商品の開発・販売
- 費用対効果を加味した店舗外出展による収益向上

【鯉の泳ぐまち観光施設】

3 施設周遊の好循環及び市内施設への周遊促進創出

- （清流亭）魅力あるギフトセンターとしての地位確立
- （四明荘）湧水文化の発信及びリラックスできる癒し空間の演出
- （湧水館）サービスの向上、新メニューの開発、情報発信
- 鯉カフェ事業の新たな特定財源の活用（現在活用中の国交付金はR7年度末で対象期間満了）

【観光案内所】

従来の「道案内所」から観光客が立ち寄りたくなる魅力ある「交流案内所」への転身

- 地元の利を生かした、その時々に応じたタイムリーな旬の情報発信と誘客活動
- 半島3市の観光案内所と連携した島原半島全域への観光周遊の促進
- 市の誘致活動と連携した配宿業務の拡充

- 富裕層向け着地型旅行商品の開発・販売
- 訪日外国人観光客に対応できる人材の確保・育成

2. 株式に関する事項

- ① 発行可能株式数 3,000 株
- ② 発行済株式の総数 3,000 株
- ③ 当事業年度末の株主数 221 名
- ④ 大株主（発行済株式総数の 10 分の 1 以上）

令和 7 年 3 月 31 日 現在

株主名	持株数
島原市	2,000 株

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

令和 7 年 3 月 31 日 現在

地位及び担当	氏 名	他の法人等の代表状況
代表取締役	菅 幸博	
取締役	金子 忠教	島原市副市長
取締役	満井 敏隆	島原商工会議所会頭
取締役	松尾 建国	株式会社松尾印刷所 代表取締役
監査役	西田 理恵子	西田理恵子税理士事務所

注1 取締役金子忠教氏、満井敏隆氏、松尾建国氏は会社法第 2 条 15 号に定める社外取締役となります。

注2 監査役西田理恵子氏は、会社法第 2 条 16 号に定める社外監査役ではありますが、その中でも独立役員となります。

注3 監査役西田理恵子氏は、税理士資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の総額

地位	人員	報酬等の額
取締役	4 人	4,950,000 円
監査役	1 人	750,000 円
計	5 人	5,700,000 円

注 1 報酬等の額は令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月末までの合計額です。

注 2 金子取締役、満井取締役については、その社会的立場から無報酬としています。

(3) 社外役員の主な活動状況

地位	氏名	主な活動状況
監査役	西田 理恵子	令和 6 年 6 月 7 日第 2 回取締役会、6 月 10 日第 8 期事業年度監査、6 月 26 日第 8 期株主総会、6 月 26 日第 3 回取締役会、8 月 27 日第 4 回取締役会、11 月 29 日第 5 回取締役会、令和 7 年 2 月 26 日第 6 回取締役会に出席し、専門的な見地から必要な発言を行っております。

【主な築城 400 年記念事業】

実施日時	事業名	参集人数
2023/12/31	島原城築城 400 年カウントダウン	2,000
2024/1/6~1/21	島原城刀剣展	—
2024/2/1~2/29	島原城市民無料開放	1,234
2024/2/17	NHK Eテレ「テレビーも！」公開収録	—
2024/2/18	宝くじスポーツフェア ドリーム・サッカーin島原	2,000
2024/2/18	島原城 梅花茶会	273
2024/2/25	開運なんでも鑑定団～出張！なんでも鑑定団in島原 公開収録	900
2024/3/3	第9回しまばら食育フェスタ	—
2024/3/20~4/7	青い目の人形～リトルメリーと仲間たち～ 日米親善人形と島原展	—
2024/3/24	肥前島原子子ども狂言 春の狂言会	—
2024/3/24	島原コスプレの乱～春の陣～	—
2024/3/24	島原城 桜花茶会	273
2024/3/31	島原城 桜花茶会	151
2024/3/31	島原城春まつり	650
2024/4/6	さくらさくらプロジェクト島原城お箏教室発表会	250
2024/4/27~5/26	小崎侃版画展	—
2024/5/11	島原城下 菖蒲茶会	100
2024/5/30	大澤 一恵 島原城築城400年記念ライブ ～昭和歌謡 Night～	—
2024/6/8~7/7	特別展「高来華」の世界～歴代藩主の墨蹟～	—
2024/7/6	島原城 セタ茶会	103
2024/7/20	島原みらいキャンパス 「ヨーロッパの人々を魅了した天正遣欧使節の着物を語る」	36
2024/7/20~8/25	北村西望生誕 140 年特別展	1,480
2024/7/21	しまばら未来平和コンサート	400
2024/8/10	島原みらいキャンパス 「神君」徳川家康の人物像」	26
2024/8/11	島原城納涼まつり	1,520
2024/9/15	島原城 観月茶会	109
2024/9/28	島原城一斉清掃	600
2024/9/28	島原みらいキャンパス 「大和五條における松倉重政-その治績と評判-」	60
2024/9/29~11/4	島原城築城 400 年記念特別企画展 「松倉重政と島原城」	—
2024/10/5	第 42 回島原城薪能	950
2024/10/5	島原城 薪能茶会	152
2024/10/12,13	島原城大手門市	14,000
2024/10/12,13	しまばら江戸まつり	16,000
2024/10/19	島原城 秋彩茶会	108
2024/10/19,20	島原城築城 400 年記念シンポジウム	100,000
2024/10/19,20	島原城マルシェ	
2024/10/19,20	島原半島ジオ・マルシェ	
2024/10/20	島原城ゆかりの地サミット	
2024/10/20	ブルーインパルス展示飛行	
2024/10/20	島原城築城 400 年記念ウォークラリー 「本丸へ攻め込め!!」	123
2024/10/26	お箏演奏と落語の会「城の秋」	80
2024/10/5,6,12,13,19,20,26,27	島原城三ノ丸御殿仲之御居間座敷一般公開	478
2024/12/1~2025/1/5	島原城刀剣展	3,282
2024/12/3~12/20	島原城古写真展「繋げ未来へ！」	—
2024/12/24~2025/1/11	島原城プロジェクションマッピング	10,024

決 算 報 告 書

(第 9 期)

自 令和 6年 4 月 1 日
至 令和 7年 3 月 31 日

株式会社 島原観光ビューロー
長崎県島原市下川尻町 7 番地 5

比較 貸借対照表

株式会社島原観光ビューロー

【資産の部】

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前期 対比
【流動資産】	【 140,617,965 】	【 107,933,856 】	【 32,684,109 】	130.3
1 現金	4,148,984	5,366,455	▲1,217,471	77.3
2 預金	122,602,916	89,184,946	33,417,970	137.5
3 売掛金	5,758,449	6,218,462	▲460,013	92.6
4 商品	5,825,014	5,655,464	169,550	103.0
5 貯蔵品	326,304	146,894	179,410	222.1
7 前払費用		4,000	▲4,000	
8 未収入金	1,956,298	1,357,635	598,663	144.1
【固定資産】	【 5,925,586 】	【 7,066,902 】	【 ▲1,141,316 】	83.8
9 (有形固定資産)	(4,914,974)	(5,693,883)	(▲778,909)	86.3
10 建物	517,500	655,500	▲138,000	78.9
11 建物附属設備	257,881	346,634	▲88,753	74.4
12 構築物	726,966	947,502	▲220,536	76.7
13 車両運搬具	1,521,937	1,219,197	302,740	124.8
14 工具器具備品	1,890,690	2,525,050	▲634,360	74.9
15 (無形固定資産)	(4,292)	(373,019)	(▲368,727)	1.2
16 商標権	4,292	6,352	▲2,060	67.6
17 ソフトウェア		366,667	▲366,667	
18 (投資他の資産)	(1,006,320)	(1,000,000)	(6,320)	100.6
19 差入保証金	1,000,000	1,000,000	0	100.0
20 長期前払費用	6,320			
資産合計	146,543,551	115,000,758	31,542,793	127.4

【ポイント】

資産合計の推移

(単位：千円)

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
金額	80,006	67,383	68,154	64,160	80,153	93,943	114,288	115,001

1. 2 現金と預金 32,200千円増加 … 指定管理料預かり分、利益の増
3. 売掛金 460千円減少 … 3月分のキャッシュレス決済、島鉄力フェトレイン入館料、フェイスマスク内部取引分などの減
8. 未収入金 599千円増加 … ふるさと納税プロモーション業務委託料の増
13. 車両運搬具 303千円増加 … 老朽化により使用不能となった軽自動車の更新に伴う増
14. 工具器具備品 603千円減少 … 多言語案内板LEDパネル、MRホロレンズなどの当期償却額計上による減
20. 長期前払費用 6,320円増加 … 軽トラック購入に伴うリサイクル預託金の皆増

比較 貸借対照表

【負債・純資産の部】

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前期 対比
【 流 動 負 債 】	【 63,865,824 】	【 44,605,301 】	【 19,260,523 】	143.2
21 買 掛 金	6,068,641	8,621,937	▲2,553,296	70.4
22 未 払 金	14,397,369	18,351,140	▲3,953,771	78.5
23 未 払 法 人 税 等	2,312,200	3,399,200	▲1,087,000	68.0
24 未 払 消 費 税 等	3,716,200	4,234,700	▲518,500	87.8
25 預 り 金	30,189,429	3,461,324	26,728,105	872.2
26 賞 与 引 当 金	7,181,985	6,537,000	644,985	109.9
【 固 定 負 債 】	【 7,721,280 】	【 7,848,000 】	【 ▲126,720 】	98.4
27 長 期 未 払 金	401,280	528,000	▲126,720	76.0
28 退 職 給 与 引 当 金	7,320,000	7,320,000	0	100.0
負 債 合 計	71,587,104	52,453,301	19,133,803	136.5
【 株 主 資 本 】	【 74,956,447 】	【 62,547,457 】	【 12,408,990 】	119.8
29 資 本 金	60,000,000	60,000,000	0	100.0
30 (利 益 剰 余 金)	(14,956,447)	(2,547,457)	(12,408,990)	587.1
31 その他利益剰余金	14,956,447	2,547,457	12,408,990	587.1
32 繰越利益剰余金	14,956,447	2,547,457	12,408,990	587.1
純 資 産 合 計	74,956,447	62,547,457	12,408,990	119.8
負債・純資産合計	146,543,551	115,000,758	31,542,793	127.4

【ポイント】

当期末の利益剰余金は14,956千円となり資本金の約4分の1となりました。

【主な財務分析指標】

- 自己資本比率（経営の安定性を測る指標）⇒ 51.1%
- 自己資本利益率 ROE（企業の利益性を測る指標）⇒ 16.6%
- 負債比率（財務上の安全性を測る指標）⇒ 95.5%

21. 買掛金 2,553千円減少 … 築城400年記念オリジナル商品の仕入、フェイスマスク内部取引分などの減

22. 未払金 3,954千円減少 … 業務委託費(刀剣調書)、観光事業費(高速バスラッピング)、修繕費(エアコン)などの減

23. 未払法人税等 1,087千円減少 … 総額の増に伴い中間納付額が前期より増となり、結果的に確定納付額が減となった

24. 未払消費税等 518千円減少 … 総額の増に伴い中間納付額が前期より増となり、結果的に確定納付額が減となった

25. 預り金 26,728千円増加 … 市委託料、市補助金、指定管理料預かり分などの増

30. 利益剰余金 12,409千円増加 … 黒字決算に伴う増 当期末一株当たり単価 24,985円（前期末比）+4.136円

比較 損益計算書

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

単位：円

	科 目	当 期	前 期	差 額	前期 対比
1	【 売 上 高 】	【 281,747,717 】	【 274,893,801 】	【 6,853,916 】	102.5
2	本部事業収益		26,880,715	▲26,880,715	
3	島原城事業収益	117,880,355	94,825,232	23,055,123	124.3
4	本丸売店事業収益	73,814,689	67,973,396	5,841,293	108.6
5	観光振興事業収益	20,243,379	17,298,143	2,945,236	117.0
6	DMO推進事業収益	4,081,144	3,661,457	419,687	111.5
7	四明荘事業収益	10,938,830	10,344,320	594,510	105.7
8	清流亭事業収益	19,821,795	20,224,485	▲402,690	98.0
9	築城400武将隊PR収益	12,319,435	16,468,841	▲4,149,406	74.8
10	鯉の泳ぐまち魅力UP収益	15,376,018	11,834,133	3,541,885	129.9
11	【再掲】自主事業収益	(9,850,088)		(9,850,088)	
12	旅行業事業収益	7,272,072	5,383,079	1,888,993	135.1
13	【 売 上 原 価 】	【 63,392,183 】	【 63,554,742 】	【 ▲162,559 】	99.7
14	期首棚卸高	5,655,464	3,934,332	1,721,132	143.7
15	売店仕入	45,416,186	45,914,307	▲498,121	98.9
16	島原城仕入		889,970	▲889,970	
17	清流亭仕入	14,187,469	14,065,676	121,793	100.9
18	委託仕入	3,091,066	2,262,117	828,949	136.6
19	DMO仕入	867,012	1,256,165	▲389,153	69.0
20	観光振興仕入		641,239	▲641,239	
21	本部仕入		246,400	▲246,400	
22	期末棚卸高	5,825,014	5,655,464	169,550	103.0
23	売 上 総 利 益	218,355,534	211,339,059	7,016,475	103.3
24	【 販売費及び一般管理費 】	【 202,276,644 】	【 206,350,978 】	【 ▲4,074,334 】	98.0
25	営 業 利 益	16,078,890	4,988,081	11,090,809	322.3
26	【 営 業 外 収 益 】	【 341,600 】	【 160,712 】	【 180,888 】	212.6
27	受取利息	53,780	722	53,058	7448.8
28	雑収入	287,820	159,990	127,830	179.9
29	【 営 業 外 費 用 】	【 0 】	【 0 】	【 0 】	
30	経 常 利 益	16,420,490	5,148,793	11,271,697	318.9
31	【 特 別 利 益 】	【 0 】	39,310	▲39,310	
32	固定資産譲渡収入	0	39,310	0	
33	【 特 別 損 失 】	【 0 】	1	▲1	
34	固定資産除却損	0	1	0	
35	税引前当期純利益	16,420,490	5,188,102	11,232,388	316.5
36	法人税等	4,011,500	3,399,200	612,300	118.0
37	当 期 純 利 益	12,408,990	1,788,902	10,620,088	693.7

比較 販売費及び一般管理費

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月31日

単位：円

	科 目	当 期	前 期	差 額	前期 対比
1	役 員 報 酬	5,700,000	9,200,000	▲3,500,000	62.0
2	給 与 手 当	36,861,589	33,837,211	3,024,378	108.9
3	賃 金	43,138,416	44,060,842	▲922,426	97.9
4	賞 与	9,979,105	4,389,250	5,589,855	227.4
5	賞与引当金繰入額	7,181,985	6,537,000	644,985	109.9
6	退 職 給 付 費 用		5,320,000	▲5,320,000	
7	法 定 福 利 費	15,155,667	13,216,120	1,939,547	114.7
8	福 利 厚 生 費	1,760,700	657,405	1,103,295	267.8
9	旅 費 交 通 費	2,530,460	3,787,220	▲1,256,760	66.8
10	通 信 費	1,945,686	2,210,609	▲264,923	88.0
11	交 際 費	562,558	359,773	202,785	156.4
12	会 議 費	191,505	32,540	158,965	588.5
13	減 価 償 却 費	3,048,526	4,904,275	▲1,855,749	62.2
14	地 代 家 賃	1,048,000	300,000	748,000	349.3
15	リ ー ス 料	1,771,708	1,084,806	686,902	163.3
16	保 険 料	2,190,148	3,771,243	▲1,581,095	58.1
17	修 繕 費	1,660,460	2,035,674	▲375,214	81.6
18	水 道 光 熱 費	9,807,175	8,526,509	1,280,666	115.0
19	燃 料 費	399,772	413,594	▲13,822	96.7
20	消 耗 品 費	5,092,595	7,354,306	▲2,261,711	69.2
21	租 税 公 課	128,586	88,110	40,476	145.9
22	事 務 用 品 費	329,625	426,141	▲96,516	77.4
23	広 告 宣 伝 費	834,050	2,388,425	▲1,554,375	34.9
24	支 払 手 数 料	1,914,827	1,725,201	189,626	111.0
25	諸 会 費	580,375	503,375	77,000	115.3
26	新 聞 図 書 費	52,632	52,632	0	100.0
27	観 光 事 業 費	2,237,817	2,373,064	▲135,247	94.3
28	自 主 事 業 費	4,451,604		4,451,604	
29	剪 定 防 除 費	3,015,000	2,588,200	426,800	116.5
30	業 務 委 託 費	14,555,371	17,525,517	▲2,970,146	83.1
31	管 理 委 託 費	7,473,000	7,208,294	264,706	103.7
32	負 担 金	569,000	694,000	▲125,000	82.0
33	消 費 税	12,042,100	11,102,000	940,100	108.5
34	印 刷 製 本 費	1,758,079	4,469,135	▲2,711,056	39.3
35	諸 謝 金	10,000		10,000	
36	島原オルレイメント		437,715	▲437,715	
37	雑 費	2,298,523	2,770,792	▲472,269	83.0
	合 計	202,276,644	206,350,978	▲4,074,334	98.0

株主資本等変動計算書

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

単位：円

株主資本

資本金	当期首残高及び当期末残高	60,000,000
-----	--------------	------------

利益剰余金

その他利益剰余金

繰越利益剰余金	当期首残高	2,547,457
---------	-------	-----------

当期変動額	当期純利益	12,408,990
-------	-------	------------

当期末残高	14,956,447
-------	------------

利益剰余金合計	当期首残高	2,547,457
---------	-------	-----------

当期変動額	12,408,990
-------	------------

当期末残高	14,956,447
-------	------------

株主資本合計	当期首残高	62,547,457
--------	-------	------------

当期変動額	12,408,990
-------	------------

当期末残高	74,956,447
-------	------------

純資産合計	当期首残高	62,547,457
-------	-------	------------

当期変動額	12,408,990
-------	------------

当期末残高	74,956,447
-------	------------

個別注記表

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 6年 4月 1日

至 令和 7年 3月31日

この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しております。

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法、リース資産についてはリース期間定額法）を採用しております。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

会計方針の変更に関する注記

会計方針の変更

該当なし

表示方法の変更に関する注記

表示方法の変更

該当なし

貸借対照表等に関する注記

その他

当 期

前 期

有形固定資産の減価償却累計額

47,981,729円

44,933,203円

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済み株式の数

当 期

前 期

前期末株式数（発行済普通株式）

3,000株

3,000株

当期増加株式数（発行済普通株式）

当期減少株式数（発行済普通株式）

当期末株式数（発行済普通株式）

3,000株

3,000株

前期末株式数（発行済優先株式）

当期増加株式数（発行済優先株式）

当期減少株式数（発行済優先株式）

当期末株式数（発行済優先株式）

その他の注記

その他

部門間内部取引 売上・仕入等に 5,286,290円含んでおります。

監査報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日までの、第9期事業年度の取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査役は、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関係する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一、事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 二、取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和7年6月2日

株式会社 島原観光ビューロー

監査役 西田 理恵子

